


Vol. **139号**

Colony Tokyo

コロニーとうきょう

2006 (平成18)年
1月1日発行

 社会福祉 東京コロニー
法人
〒165-0023
東京都中野区江原町2-6-7
TEL 03-3952-6166
FAX 03-5952-6664
<http://www.tocolo.or.jp/>
(法人本部 事務局)

賀正



アートビリティギャラリー 16 作者 まちだ けいこ 『新しい日』(詳しくはP13頁をご覧ください。)

時評「劇場の現実化」

法人の主な動きから

2005年度 上半期総括事業報告書

法人本部・コロニー印刷所・コロニー中野・アートビリティ・IT事業本部・デジタルメディアセンター・トーコロ情報処理センター・職能開発室・トーコロ生活支援センター(〒165-0023 中野区江原町2-6-7)・葛飾福祉工場(〒125-0042 葛飾区金町2-8-20)・立石工場(〒124-0012 葛飾区立石8-50-1)・トーコロ情報処理センター事業部(〒162-0051 新宿区西早稲田2-2-8)・コロニー東村山印刷所・コロニー東村山・コロニー東村山第二印刷所(〒189-0001 東村山市秋津町2-22-9)・大田福祉工場(〒143-0015 大田区大森西2-22-26)・浜松町工場(〒105-0022 港区海岸1-4-17)・トーコロ青葉ワークセンター・トーコロ青葉第二ワークセンター・トーコロ青葉第三ワークセンター(〒189-0002 東村山市青葉町2-39-10)・国分寺戸倉寮(〒185-0003 国分寺市戸倉1-21-9)・東久留米第一氷川台寮・東久留米第二氷川台寮(〒203-0004 東久留米市氷川台2-31-22)

時評

「劇場の現実化」

理事長 **勝又 和夫**
かつまたかずお

1、はじめに

8月8日の郵政法案否決による衆議院の解散は、その後のマスコミ報道を「刺客報道」に見られる如く、政治を一種の劇場劇に仕立てていったと評しても過言ではなく、9月11日の総選挙では事前の予想を大幅に上回る自民党の圧勝を呼び、公明党を含めた与党が参議院の議決すらも覆せる3分の2以上の議席を得るという結果に終わりました。

通常は首班指名だけに終わる総選挙後の特別国会は、この結果を受けて、異例の長さの40日間という会期設定がなされ、郵政関連6法案にとどまらず私たちに最も関係があり障害者福祉の大改革でもある「障害者自立支援法」も上程され、可決・成立しました。

選挙結果が民意のすべてですからこの状況下で新たな課題に立ち向かわなければなりません。障害者福祉分野としてはドラマが現実のものになる足音を聞く中で新しい年となつていきます。

2、描かれたシナリオ

授産事業に対するここ数年の政府の発言等では、「養護学校卒業生の半

分以上が福祉施設の利用者になり、その施設から一般企業への就職は1%に過ぎない」や「授産施設の55%が1万円以下の工賃しか払っていない」等、運営の非効率性等を指摘するものになっていました。

2003年度に始まった支援費制度での予算不足は、「施設に3割の障害者がいて7割の予算を使い、一方居宅は7割の障害者がいるのに3割の予算しか使われていない」としてこの議論の中でも施設福祉の非効率性等が問われるものになっていました。政治の大きな流れが「小さな政府」を指向し、社会保障の考え方において「自己責任論」が中心となる中で、公費支出の抑制策としての民間化や競争原理の導入、さらには公費支援に見合う自己負担化などが政策の方向とされる中で、「今後の障害保健福祉について（改革のグランドデザイン案）」が障害福祉分野のこれからの目指すべき方向のシナリオとして描かれていったと思えます。

諸外国との比較や戦後60年の実践の積み上げにはほとんど目を向けることなく、財政的視点を中心に次々とこれらのシナリオが描かれたものと思えます。

3、ドラマが現実化

養護学校卒業生の一般企業への就職率は年々低下し、直近のデータでは20%を割った状態にあり、障害者の就業者数では、平成10年の52万人が平成15年には48万人に落ち込み、障害者の法定雇用率も法制定後一度も達成されることなく1・8%に対して1・49%にとどまった状態にあります。この現実の中で描かれたシナリオでは、大多数の障害者が一般企業に働けるようになっていくことを想定し、そのための施策がこの4月から本格的に実施されようとしている状況にあります。

施設利用者には、給食職員の人件費を含めた実費負担や残りの公費の1割の定率負担を求めるとして実施が予定され、事業者には2006年10月からの新事業体系に円滑に移行が進むようにと、2006年4月からの支援費単価の切り下げが言われ始めています。また、新事業移行後は雇用関係にある者を含めてすべての利用者に個別支援計画の策定が義務付けられ、目標が達成できない場合は報酬単価の切り下げも行うとするもので、利用者全体に対してはサービス利用の結果として「訓練

と向上」を求めるものになっていま
す。

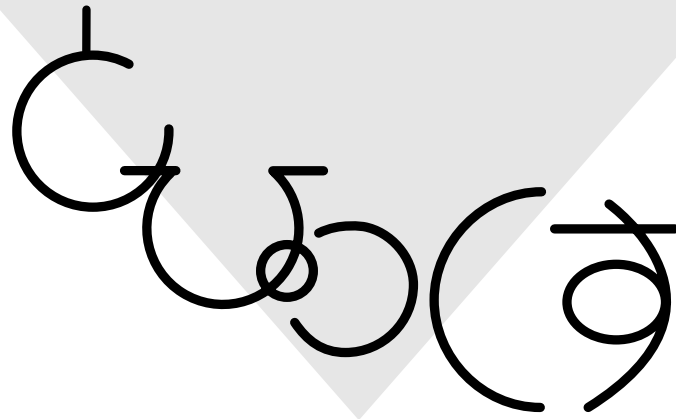
本格実施の4月に向けて、私たち
には多くの取組み課題が提示された
ことになりましたが、ドラマと現実の
ギャップを埋めるべく早急に各種作
業に着手しなければなりません。

4、今日に続く明日

社会がどのように変化しようとも、
そこに暮す人たちにとっては、毎日
の連続であって、ドラマのように
「あつという間」にドラスティックに
は変化できないものと思えます。

しかし、それだからと言って変化
への時間がかかり過ぎてある期間が
経つと周りの景色が一変している心
配があり、新たに求められる変化に
対しては、関係するすべての人たち
に理解を得ながら可能な限り認識の
共有を図りつつ、すべての人にと
つて如何にその影響を小さくするこ
とができるか取組んで行かなければ
なりません。

新年に当って関係する皆様のご理
解とご協力を切に願います。



中野工場

第17回 アートビリティ大賞受賞式

2005年11月18日(金)、日本
財団ビル1階フロアにて、第17回ア
ートビリティ大賞受賞式が開催され
ました。

今年度は、アートビリティ大賞に
野村育葉(のむら いくよ)さん

選考理由 卓越したオリジナリテ
イと豊かな感性に彩られた作品は、
クライアントのみならず、作家やデ
ザイナーの間からも評価が高く、フ
アンが多い。

今年度は企業のWEBサイトの表
紙を一年間飾り、企業カレンダー各
社での採用など、さまざまなメディ



挨拶する武者アートビリティ代表



受賞された作家さんとスタッフ一同

アで活躍されました。
満を持しての受賞。選考委員会で
の圧倒的な支持を受けての大賞受賞
となりました。

アサヒビール奨励賞に田中瑞木
(たなか みずき)さん、

選考理由 今年度新規登録され
たばかりの新人作家ながら、各地で
の個展開催、地域での原画の出前貸
し出し、私設美術館の開放などの地
道な作家活動歴は長い。

初応募の作品群で、審査員たちを
驚かせた優れた感性と豊かな表現力
は今後を期待させるに十分な魅力が
あります。

すでに来年度の企業カレンダー2
社に採用が決定しています。

日立キャピタル特別賞にまちだけいこさん

選考理由 障害者アートバンクの時代から、クライアントからの好感度も高く、コンスタントに作品が使用されていた実力作家です。

今年度は特にポスターや新聞広告などメディアに登場する機会が多く、アートビリティへの貢献度が大きかった。実力のある作家が再評価される形となり、今回の受賞へとつながりました。

今回も大勢のクライアントや作家の方たちに参加をしていただき、終始なごやかなふんいきの中で無事に終了することができました。

また、今回のアートビリティ大賞ならびにアートビリティ事業をご支援いただきました企業・団体をご紹介させていただくと共にこの場をお借りして心よりお礼申し上げます。

(順不同・敬称略)

協賛：アサヒビール株式会社

日立キャピタル株式会社

協力：マルイグループ福祉会

全国本田労働組合連合会

キヤノン株式会社

沖電気工業株式会社

笹川平和財団

(アートビリティ事務局)

東村山工場

第44回東村山市民産業まつり

東村山工場では、積極的な地域参加の一環として毎年11月に行われる東村山市民産業まつりに参加してまいりました。これまでは主にアートビリティカレンダーを販売する場として位置づけていましたが、一昨年の産業まつりにおいて福祉部門のエリアが未舗装エリアの場所割など市の福祉に対する対応が非常に大きな問題となりました。その後エリアの再割り当てを検討した結果、ある程度の規模縮小が行われ、参加ブース数も減ってくるなど大きな変更が行われました。

11月上旬の土日に行われるこの祭りには、商工会やJAを中心とした産業分野での出展をはじめ消防署や警察署などの官公庁、市内の各作業所などから普段の活動の紹介や、自主制作した陶器の販売、友好都市からの出展、飲食店からの出店など東村山市役所を中心としたエリアで行われています。

これまででは全生園さんと私たちの事業所で1日ずつ出店していましたが、昨年より全生園さんが出店を取りやめにしたため、今年は開催日両日2日間の出店となりました。毎年

委員会により産業まつりにどう取り組んでいくかを検討していましたが、今年は参加日程が増えたことや、産業という視点から見た際に私たちの一番中心となる事業である印刷業をもっとアピールできないかという事を検討し始めました。

まずは出店内容についての検討ですが、販売と広報の2面から検討することとしました。販売品目については例年通りアートビリティカレンダーを中心に、メモ帳の販売を行っていましたが、今年は東村山工場で理想科学さんの正規会員店となったこともあり年賀状の受注をあわせて行うこととしました。时期的なマッチングも図れるので、現地で受注ができるようにするにはどうしたらよいかを、担当の業務二係及び営業からの協力を得ながら販売となりました。パソコンが普及している中で受注なのでリンググラフの特徴でもあるコピー感覚で手書きの年賀状も作成できる事を売りにしました。実演ができればさらに説得力も増えるだろうとし、はがき印刷のチラシについては現地にリソ機を持ち込み実演しながら配布することとしました。

販促についてはこの年賀状をはじめとした簡易印刷、オフセットの仕事についてもコロナ営業の特徴である、お客様に合わせたきめ細かい営業を前提として、お客様相談窓口を設け印刷物受注のチラシを出店さ

れている企業や店舗、そして来訪のお客様に配布しました。あわせて個人印刷、同人誌の受注についてもチラシ配布を行いました。

当日は初日の朝方、雨が降ったものの天気にも恵まれ2日間ともよいお天気となりました。積極的に販売をおこない、今回から初めての試みの商品についても多少ではあります。実績を残すことができました。委員



会の中心メンバーに営業の方たちが参加していることもあり印刷相談にも何件かの問い合わせがありました。

年に一度の事ながらも、毎年アートビリティカレンダーを楽しみに来て下さるお客様が何名もいらっしやいます。今回の産業まつりへの取り組みはコロナの事業を広く地域の方たちに知っていただく為にも重要な役割を果たしています。今後も継続し、地域とともに歩む事業所を目指して行くことができると感じました。

(ケースワーカー 井上忠幸)

IT事業本部

IT技術者在宅養成講座 「説明会」の実施

職能開発室では、1980年より、重度の障害のある方が在宅で就労に必要なITを学ぶ「IT技術者在宅養成講座（東京都重度身体障害者在宅パソコン講習事業）」を行っております。来年度の受講生を募集するにあたり、今回初めての試みとして、講座の「説明会」を実施しました。

これは、受講を希望する方に事前に講習の目的や内容を正しく理解していただくことや、関係者の方々への情報提供を目的としたものです。

11月30日の説明会当日は、受講を希望する当事者の方や養護学校の先生、自治体の福祉関係者の方など20数名の方にお集まりいただきました。まずは職能開発室の3つの事業（教育、雇用支援、就労支援）の内容を説明し、各事業の連係について在宅講座を修了した方の具体的な事例をもとお話しました。次に、在宅講座の詳細として、毎日の学習の流れや年間の学習スケジュールについてご説明しました。また、講座で使用しているインターネット上の学習システム「トコココBBS」のデモンストレーションを行い、毎日の



学習報告や質問のやりとりや画面の閲覧をしながら、これらが就労に欠かせない報告・連絡の修練の場であることもご理解いただきました。

最後に、在宅講座以外の選択肢として、職能開発室が実施している短期のWeb作成講座や東京都障害者ITサポートセンターについても情報提供させていただきました。

説明会実施の背景には、近年の受講希望者の多様化があります。以前に比べてコンピュータの仕事的幅が広がったことや、パソコンが一般家庭に普及したことにより就労が目的ではなくコミュニケーションや情報収集の道具としてパソコンの技術の習得を望まれる方も多くあります。単に受講生を募集して選考するというだけでなく、それぞれのニーズに合った技術習得の方法を探すお手伝いができればと考えております。

（職能開発室 岩田真紀）

大田工場

30周年記念フェスティバルと講演会

大田福祉工場では創立30周年を記念して、障害者自立支援法についての講演会とフェスティバルを開催しました。

講演会は10月15日、講師にきょうさん東支部の小野浩事務局長を迎え、「自立支援法でどうなる就労支援 福祉工場・作業所・授産施設、そして、そこで働く私たち」というテーマで行いました。大田福祉工場の近くにある区民活動施設「こらば大森」を会場に、地域の障害者や作業所のみなさんにも参加していただきました。

講演の中で、自立支援法は成立したものの、先行きのまったく不透明な就労支援の問題点が浮き彫りになってきました。また、ここで働く私たちが抜きにして、制度が決められ実施されることに対して、地域での当事者や関係者のネットワークを密にし、就労支援の後退を許さないことが大切であることが語られました。

私たち自身が障害者就労をめぐる当事者として、「働きたいと考える障害者が働ける社会」を実現するた

めに、自立支援法で定められた体系の中でも、出来ることを重ねていき、制度の問題点を明確にしながら、それを跳ね返す取り組みが必要とされているように感じました。

フェスティバルは晴天の秋空の下、ゲストに寿Kobun、そして善意銀行を通して「ザ・ノーツみずほ」というジャズのビッグバンド、また、地域で沖縄音楽の演奏を続けている「海ヤカラス」のみなさんにボランティア出演していただき、開催しました。30周年ということで多くのOBの皆さんをはじめ、毎年バザーを楽しみにしていた地域の皆さんにもご来場いただきました。

私たちはみなさんの支えで30周年を迎えることができましたが、福祉工場を初めとする障害者就労支援の施設体系は大きな岐路に立たされています。この大きな波の中で福祉工場が次の時代のために、必要とされる就労支援の場として再出発することを決意して30周年行事を締めくくりました。

（第二製造課長 鶴田雅英）



葛飾工場

2005（平成17）年度 勤続表彰

毎年10月1日に法人全体で行われていた表彰式が、ここ数年前から各事業所単位で行うようになってきました。

葛飾福祉工場では、毎年12月（今年、12月2日）に金町工場・立石工場・多摩営業所の全体の忘年会の会場で、交友会々長の挨拶・所長の挨拶・乾杯の音頭の後、食事をしながら、また一杯飲みながらとはなりますが、皆が酔ってしまわないうちに表彰式を行い、所長から感謝状を一人一人読み上げて授与されます。表彰された従業員の代表から、一言コメントをもらったりもしております。

さらに、昨年の忘年会の時の表彰式以降採用された従業員を、今後、10年・20年・30年さらに40年と頑張ってもらいたいと言つ気持ちもあり、新人紹介として一人一人を紹介しております。

今年、勤続30年表彰者が3名、勤続20年表彰者はありませんでした。勤続10年表彰者が7名ありました。葛飾福祉工場は、1973（昭和47）年4月に開設し、早くも33年を

経過しましたので3年位前から勤続30年、20年、10年表彰者が続々と出てきております。

設立33年という歴史はありますが、体調を崩して途中で退職した人もおり、当初から勤務している人は少なくなりました。でも、これから先は、学校を卒業して新卒で葛飾福祉工場に入った従業員なども含めて、勤続10年・20年・30年、さらに40年の表彰者が、多く出てきてもらいたいと思います。

（総務課長 須賀敏夫）

福祉事業本部

「第25回 いのちかがやけ 障がい児(者)作品展」に参加

10月22日（土）から25日（火）まで、東久留米市民プラザ室内広場にて開催されました。

この作品展は東久留米市社会福祉協議会と東久留米市手をつなぐ親の会が、障害のある人、ない人との相互理解を深めることを目的として、1981年に第1回目を実施して以来、毎年行われ、今年で25回目になります。

東久留米第一、第二氷川台寮も、2002年開寮以来毎年参加させていた来て来ました。



私は今年の4月より第二氷川台寮の世話人をさせて頂いてきている、新米です。

夏ごろ、今年の「いのちかがやけ 障がい児(者)作品展」に第二氷川台寮も参加することとして作品展の趣旨、必ずしも入居者全員でなくても出展される方だけでよいなどの説明を受けました。日々の業務に追われ、まだ先のことだと忘れていました。

9月になり、支援の難しさ、特に自立支援の難しさ、を少し感じ始め、自立支援は新米世話人が簡

単にできることではないこと、入居者と1年・2年と向かい合い、信用されるまで時間の許す範囲で、できるだけ一緒にいる支援しかできないことがわかり始めた頃、出展者のリストの依頼があり、作品展の事を思い出しました。

参加するなら入居者全員で参加したいし、どうすれば入居者全員が参加できるのかわからないまま、ただ、日にちだけが過ぎて行きました。

全員で参加できないなら断ろうと思ったとたん、今日まで身に着けた、入居者と波長が合う時お願いすればいいんだ！だめなら断ればいいんだ！と思い、皆さんにお願いし、全員の作品ができました。悩んだことは無駄でした。

作品を搬入し、作品を飾っている時、制作途中に誇らしげに見えるときたり、制作中の笑顔・・・が浮かび、熱いものがこみあげ、どうだ！みんな見てくれ！と、心のなかで叫びました。

作品を飾り終え、数歩離れて全員の作品を改めて見た時、今回の作品展は新米世話人の為の作品展だと苦笑し、入居者との距離がほんの少し縮まったかなと思いがほら、会場を後にしました。

（グループホーム支援スタッフ

梅澤一也）

青葉ワークセンター

秋の一泊旅行（軽井沢）

10月14日（金）、先週の週間天気予報で、曇り時々晴れの予報が出ていましたが当日は、晴れ間がのぞいていました。途中道路が混雑したため最初の目的地のグリーン牧場には40分遅れて到着しました。グリーン牧場ではシーブドッグショーの見学をしました。シーブドッグショーは大変見もので山の斜面の中腹辺りから犬がかけずり回って、羊を追いかけて1つの集団にして1箇所を追い込むのです。時間があれば羊の触れあいや体験乳搾りも出来たのですが、ホテルに早く着いて一休みしたい私たちは先を急ぎました。そして見物後私たちは、ホテルに向かいました。ホテルは広くて豪華でした。アメニティグッズが充実していて、設備も揃っていました。食事は、コース料理ですべて食べ終えるまでに2時間近くかかりました。どの料理もとても美味しかったです。中には、折角だからと自分のお金でワインを注文している人もいました。大浴場には、露天風呂もついでいて初めて入った人は、とても喜んでいました。二日目は、おもちゃ博物館と絵本の森美術館へ行きました。皆、子ども

の頃読んだ絵本が展示されていて懐かしさを感じて見入ってしまったりしていました。私は有名な題名だけれど内容をよく知らない絵本の絵入りの解説にざっと目を通してこういう話だったのかと今になってわかることが出来、得した気分になりました。おぎのやドライワインで釜飯を食べて帰途に向かいました。帰りは、30分早く到着しました。去年は東京ディズニーランドで遊んで、今年は避暑地の立派なホテルでゆったりとした気分を味わうことが出来ました。東京も良ければ地方もまた良かったです。

（製造部事業課 小寺伸季）



おもちゃ博物館の前で



ホテルでの夕食を終えて



法人の主な動きから

葛飾北斎展にご招待を受けて

去る11月12日の土曜日、三菱商事社会・環境室様のご招待企画で、東京国立博物館にて開催されている「葛飾北斎展」を楽しんでまいりました。

身体に障害のある方や知的障害のある方にゆつくりと作品を楽しんで頂けるように、というご配慮で、何と、一般公開時間後に館内を貸し切り、学芸員の方によるレクチャーつきという豪華で贅沢な企画となりました。

参加者は、コロニーの関係者のみで約50人、1000人収容の大きな美術館を、ほぼ独り占めのような気分です。じっくりと北斎の世界を堪能したのでした。

北斎は、アメリカのライフ誌でのアンケート「これまでの1000年でもっとも偉業を残した世界の100人」にも日本人で唯一選ばれた世界の巨匠です。

聞くところによると、その北斎の秀作を今回は世界中から可能な限り集めており、今世紀2度とあるかないかというスケールの展示とのこと。各国からわざわざ日本に見に来ている北斎ファンも多く、日中はかなり

混雑していました。

秋の夜長にゆつくりと鑑賞を楽しんだ皆さんからは、「いつもは人混みで苦しくなりあまり長く見れなかつたんです。細かいところまで感じることができました。」(難病の方)「普段は入りづらくて遠慮してました。良かった!」(車椅子の方)など、今回の企画の着眼の素晴らし

しさと、北斎の繊細かつダイナミックな魅力に、感嘆の声が上がっていました。

また、今回は、三菱商事様の社員の方々による介助ボランティアさんも会場にいてくださり、細かいところまで気を使ってくくださったのもありがたい限りでした。

このような貴重な文化に触れる試みは、協賛企業様や開催施設様のご協力あつての賜物です。こうした機会が今後も広がっていくことを期待しております。

(IT事業本部機能開発室課長 堀込真理子)

障害者居宅介護事業の対象を拡大「トコロコロ生活支援センター」

今年度、知的障害のある方を対象として6月1日付での東京都の事業者指定を受け、準備を進めてまいりましたが、さらに身体、児童、精神の障害のある方にもご利用いただけるように12月1日付での手続きを行い、承認を得ました。

この事業は、地域で暮らす障害のある方のニーズを伺い、通院や買物の付き添い、自宅での調理や掃除、



洗濯などの家事援助、食事や入浴、排泄の身体介助などのサービスを行なうものです。

上半期は、法人として初めての居宅介護事業として、立ち上げの準備にほとんどを費やすこととなりましたが、下半期に入り、法人内の利用者の方々から利用希望のご連絡を着々といただいております。

いよいよ、身体・精神の障害のある方と児童についてもサービス提供が可能になりました。

ヘルパーさんの確保に努力しつつ、居宅事業として軌道に乗せていきたいと思っております。

(福祉事業本部長 加藤留美子)

登録ヘルパーさん募集!

トーココロ生活支援センターでは、一緒に仕事をしていただけの登録ヘルパーさんを多数募集しております。ご興味のある方は、是非一度、お問い合わせ下さい。

問い合わせ先

03 3952 6166
トーココロ生活支援センター

ビジネススマナー研修

9月27日(火)に、中野駅近くの「スマイルなかの」でビジネススマナー研修を開催しました。ここ数年、

連続してお願している吉村政代講師(株総合教育コンサルティング)より、「自分の人柄の強み、弱みを知る(TA交流分析)」、「顧客へのサービス」、「電話応対(実習)」他を学びました。各事業所から18名の参加がありました。ここで、3人の方のレポートを紹介させていただきます。

顧客満足とは、お客様がより優れた、質の高い製品を求めている。企業が提出する製品、サービスを、お客様側から評価する。を学びました。お客様が選ぶ時代、私たちは選ばれる人。ということになります。競争市場のなかで福祉工場もまた例外ではないことを痛感しました。

電話応対は、会社の顔として、又お客様の立場に立つて、感謝の気持ちで応対していきたいと考えます。講師が「接遇一つで、売上が上がったケースがある」とおっしゃっていました。私も営業を支援するとう意識でやっていきたいと考えます。「企業人『プロ意識10原則』」の

なかに、目的、コスト、改善意識があります。庶務係の一員として、早速、所属部で会議を開き、提案を出し合い、まず出来ることから始めていきたいと思えました。

(葛飾福祉工場)

総務課庶務係 岩崎 眞

吉村政代先生によるビジネススマナーの研修が、9月27日に行われました。一般社会と福祉施設とのズレを感じ、よいシゲキを受けた感じがします。悪く言えば、重箱のすみをつつくような指摘でしたが、ビシビシと言われ、なるほどと納得しました。

3才までに形成される性格は変えられないけれど、行動を変えれば、習慣性は変わるとの理論を教えられ、これからがんばらなければと思えました。

営業とは、営業マンががんばれば良いというのではなく、バックアップする事務職の電話対応等も、かなり重要なのだとわかり、これからもがんばろうと思えました。

(青葉ワークセンター)

総務課 長塚 健

久しぶりに研修会に出席しました。

午前中に実施したTA(交流分析)というもの。結果のエコグラムを一人一人見て廻りながら講師の吉村先生が発した言葉は衝撃的でした。ま

るで占いか何かのようにその人の仕事上でのおかれてる立場、同僚との関わり方など詳細を的確に言い当て今後どういう所を直したらいいのかなどアドバイスをいただきました。その後の人間関係が一目でわかるOK図表も自己分析する上でとても興味深いものでした。

午前中は「自己への気づき」、「他者理解」、「自己と他者との交流」、「自立的な生き方をする」、「真実の交流(親交)を回復する」と言う順で進行していったわけですが、年齢に関係なくいくら年を重ねてもその人本来のもっているパーソナリティの形成プロセスは幼児期から関わっているものなので、自分で改造していかうと言う意志がなければなかなか変えられないもののようにです。自己への気づき、改造点の指摘などはとても刺激になり良い経験だったと思うので、これからどんなふうに変えていけるか楽しみでもあります。

午後の電話の応対。これも今更には思いつつやってみると改めて気づかされるが多々あり、何度も赤面してしまつような場面もありました。このような研修は自己啓発の観点からも大いに参加していきたいと思えます。とても良い勉強になりました。

(中野工場)

第一製造部 武田しるん

2005年度 上半期総括事業報告書

国は、昨年10月に「今後の障害保健福祉施策について（改革のグランドデザイン案）」により、戦後の障害者福祉を一変させる内容をもって障害者福祉分野の改革の方向性を提示しました。

「障害保健福祉の総合化」（身体・知的・精神障害者に対するサービスの共通化と市町村を中心とする実施体制化等）、「自立支援型システムへの転換」（就労および自立支援の重視等）、「制度の持続可能性の確保」（義務的経費化と定率負担の導入等）の3本柱からなるこの改革は、「障害者自立支援法案」として衆議院の解散により8月に一度廃案となったものの、第163回国会において再上程し、成立を期すとともに併せて関係する37法律57条項を改正するものになっています。

東京都は、2000年12月の「東京都福祉改革推進プラン」を、さらに新たなステージに推し進めるために「TOKYO福祉改革STEP2」（2002年2月）を策定し、国に先がけて「施設偏重から地域へ」や

「公立・社会福祉法人中心の供給体制の改革」に着手しています。

これら一連の施策には、急増する福祉予算に対し、障害者個人に対しては自助を基本とし、供給主体に対しては、市場原理に基づく効率性が求められるものになっています。こうした中であつて私たちは、障害者の地域生活における自立が真に実現できるように施策の方向性を見守って行かなければなりません。

この2年間で、「措置制度」から「支援費制度」への移行や、「新会計基準・授産会計基準」への移行等、社会福祉基礎構造改革をさらにラディカルなものとして求める小泉構造改革に関する一連の施策において、法人としての経営自立にとどまらない改革がより一層求められることになっていきます。

わが国の経済は、2004年度における政府の経済見通しで「穏やかなデフレは継続するものの、世界経済が回復する中で企業収益の改善が続く、設備投資が増加するなど、引き続き民需中心の回復過程をたど

る」として、本年に入ってから経済は階段の踊り場の状況をほぼ脱し回復基調にあるとされています。

福祉諸制度等のこうした変革期にあつて、法人としては組織の見直しを行い、運営のあり方を整理してきているところでありますが、本年度は改めて法人の財政問題等を含む存立基盤の改善を図ることにより、社会的な制度変革等に対応しなければならぬ状況にあります。

公的援助等が厳しくなる中で、当法人の目的とするサービス水準を自らの経済活動によって維持・発展させなければなりません。当法人の主力事業である印刷業は依然として厳しい経営状況にあります。本年度はこのことを改善するために印刷本来の事業の再建とともに、新たな職域等の拡大により経営体質の改善等を図る予定で業務遂行に努めています。

情報処理事業は、入力部門で確実な加工高を得る一方、ネット化社会や障害者雇用の社会的変化に配慮ることにより先進的な事業を本年度も

取り組みつつあります。

縫製・製袋・防災・安全用品等製造販売事業はトータルとして黒字基調で推移しており、本年度はさらに縫製・製袋部門の受注対策を実施し、その改善に目処をつけるべく事業を推進しています。

メールサービス事業等は、社会就労事業本部内における連携や自らの営業活動等により、事業経営のさらなる活性化に向けて取組むこととされていますがやや厳しさの見えるものとなっています。

生活支援事業は、新規の居宅介護事業も開始し安定化に向けて事業推進を図りつつあります。

法人全体として以上の事業の他、福祉改革に関する一連の施策に対応するための法人内部での取り組みとともに、全国社会福祉協議会、東京都社会福祉協議会、日本障害者協議会、社団法人ゼンコク等各種関係団体における当法人として果たす役割も増加しています。

表1 総括決算損益推移表

(単位：千円)

		2002年度	(注) 2003年度	2004年度	2005年度
		1. 法人本部	中間決算	- 31,273	- 27,372
	決 算	10,435	- 22,194	26,424	* 20,000
	損益累計	11,351	83,395	109,818	* 129,818
2. 福祉事業本部 (戸倉寮・第一氷川台寮・第二氷川台寮・居宅支援)	中間決算	- 2,476	6,606	- 132	389
	決 算	697	5,134	1,128	* 1,409
	損益累計	1,323	6,457	7,585	* 8,994
3. IT事業本部	中間決算	- 17,058	- 5,288	11,695	9,589
	決 算	- 9,040	14,697	33,688	* 11,163
	損益累計	24,444	39,142	72,830	* 83,993
(1) トーコロ情報処理センター事業部	中間決算	2,877	3,719	4,870	4,866
	決 算	7,004	7,947	12,693	* 5,429
	損益累計	35,733	43,681	56,374	* 61,803
(2) 職能開発室(含 事務局)	中間決算	924	951	- 28	- 629
	決 算	1,092	1,346	465	* 669
	損益累計	4,711	6,057	6,522	* 7,191
(3) デジタルメディアセンター	中間決算	- 20,859	- 9,958	6,853	5,352
	決 算	- 17,136	5,404	20,530	* 5,065
	損益累計	- 16,000	- 10,596	9,934	* 14,999
4. 社会就労事業本部	中間決算	- 64,852	- 54,069	- 25,392	- 61,257
	決 算	- 299,878	- 12,023	13,161	* 12,600
	損益累計	- 311,473	- 476,941	- 463,780	* - 451,180
(1) コロニー印刷所 (含 コロニー中野・アートピリティ)	中間決算	- 51,420	- 23,037	- 17,148	- 36,125
	決 算	- 283,612	4,693	2,902	* 0
	損益累計	- 336,844	- 350,904	- 348,002	* - 348,002
(2) コロニー東村山印刷所 (含 コロニー東村山・第二印刷所)	中間決算	- 22,199	- 35,654	- 12,184	- 31,190
	決 算	88	- 27,806	2,581	* 0
	損益累計	19,053	- 143,444	- 140,863	* - 140,863
(3) トーコロ青葉ワークセンター (含 第二・第三ワークセンター)	中間決算	8,767	4,622	3,940	6,058
	決 算	- 16,354	11,090	7,678	* 12,600
	損益累計	6,318	17,407	25,085	* 37,685
5. 福祉工場事業本部	中間決算	- 76,013	59,442	23,583	276,557
	決 算	234,279	230,041	475,790	* 185,931
	損益累計	816,628	1,046,668	1,522,459	* 1,708,390
(1) 葛飾福祉工場	中間決算	- 27,791	74,495	34,242	305,344
	決 算	259,919	227,049	454,537	* 182,938
	損益累計	1,153,186	1,380,234	1,834,772	* 2,017,710
(2) 大田福祉工場	中間決算	- 48,222	- 15,053	- 10,659	- 28,787
	決 算	- 25,640	2,992	21,253	* 2,993
	損益累計	- 336,558	- 333,566	- 312,313	* - 309,320
合 計	中間決算	- 191,672	- 20,681	20,416	235,753
	決 算	- 42,932	215,653	550,191	* 231,103
	損益累計	643,973	698,721	1,248,912	* 1,480,015

* 見込額

(注) 2003年度は新会計移行に伴い損益累計表示の変更あり

表2 在籍者の推移

自2005年4月1日 至2005年9月30日

(単位：人)

	前年度末 在籍者数	期 中 増 減		法人内異動を除く主な減員理由		上 期 末 在籍者数
		増 員	減 員	自己都合	疾病、その他	
雇 用 就 労 者	109	2 (1)	2 (0)	2	0	109
授産施設の利用者	205	56 (42)	50 (41)	9	0	211
パ ー ト 等	5	0 (0)	0 (0)	0	0	5
訓 練 生 等	17	5 (0)	7 (2)	0	5	15
障害のある就労者 計	336	63 (43)	59 (43)	11	5	340
障害のない就労者	265	16 (1)	11 (1)	9	1	270
合 計	601	79 (44)	70 (44)	20	6	610

() は法人内異動

今回の受賞作家の作品を紹介させていただきます。

第17回アートビリティ大賞

野村 育葉 (のむら いくよ)



アサヒビール奨励賞

田中 瑞木 (たなか みずき)



日立キャピタル特別賞

まちだ けいこ





アートビリティ ギャラリー 16

『新しい日』
まちだ けいこさん



アートビリティ

1986年障害者アートバンクとして設立。「才能に障害はない。障害者の才能は、アートの分野において健常者とかかわらない」を基本姿勢に活動を続けています。登録作家約400名、登録作品約4,000点、昨年1年間の使用実績約330点、年間の作品応募は2,000点を超えます。2002年4月アートビリティと改称。

新しい年の始まりにふさわしい、希望に満ち溢れたまちだけい
こさんの作品、「新しい日」をご紹介します。

まちださんは、2005年度の第17回アートビリティ大賞で日
立キャピタル特別賞を受賞されました。

まちださんのアートビリティへの登録歴は長く、障害者ア
ートバンクの時代から支えてくださった作家さんでもあります。長
い地道な作家活動が実を結んだ結果となった今回の受賞は、ご
本人だけではなく、事務局にとってもたいへんうれしい出来事
でした。

授賞式の会場で、「今日のこの日のことは、私、一生忘れられな
い思い出になりそうです」と喜びを表現してくださったまちだ
さんの姿は、私たちも忘れられません。

まちださんの作品は、ご本人の穏やかでやさしいお人柄そのも
の、やわらかな感性の息づいた作品ばかりです。

そしてその中に、いつでも明日への希望に満ちた、まちださん
の前向きな姿勢を感じ取ることができます。

受賞を機に再び創作意欲を燃やしてくれるようになったまちだ
さん。今後の作品が楽しみです。

(アートビリティ 事務局 岡嶋 明美)

ご協力をお願い

社会福祉法人東京コロニーでは、障害のある方への支援を就労や教育、生活の面から数多くの事業を行なっています。めざすことは、それらによる障害者の大きな意味での自律支援です。

私共の事業を応援して下さる方(あるいは団体)からのご協力を、下記を窓口にて常時受け付けております。ご寄付の場合は、主に新しい事業の立ち上げや先進的な取り組みを行うための財源に充当させていただきます。より多くの方へのより質の高いサービスをめざす当法人の事業に対し、今後ともご理解とご協力をお願いいたします。

(社会福祉法人への寄付は、税金が免除になります。ご寄付をいただいた際はそのための領収書を発行させていただきます。)

ご寄付受付 社会福祉法人東京コロニー 法人本部事務局(担当 加藤)
〒165-0023 東京都中野区江原町2-6-7 tel03-3952-6166 fax03-3952-6664

東京コロニーのホームページ



東京コロニー メインページ
<http://www.tocolo.or.jp/>



コロニー東村山印刷所・コロニー東村山
 コロニー東村山第二印刷所
<http://www.hig.tocolo.or.jp/>



コロニー印刷所
<http://www.tocolo.or.jp/nakano/>



デジタルメディアセンター
<http://www.tocolo.or.jp/dmc/>



アートビリティ
<http://www.artbility.com/index.html>



東京都大田福祉工場
<http://www.tocolo.or.jp/oota/>



トーコロ情報処理センター職能開発室
<http://www.tocolo.or.jp/syokunou/>



トーコロ青葉ワークセンター
<http://www.tocolo.or.jp/aoba/>



東京都葛飾福祉工場
<http://www.fireman21.net/>



トーコロ情報処理センター事業部
<http://www.tocolo.or.jp/joho/>



トーコロ生活支援センター
<http://www.tocolo.or.jp/seikasu/index.htm>



グループホームのページ(東久留米氷川台寮)
<http://www.tocolo.or.jp/hikawadai/index.html>